高砂香料工業株式会社
2027年3月期第2四半期（上期）決算説明会

証券コード:4914

2026年11月24日

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

目次

I. 事業概況(ハイライト)

II. 2027年3月期 第2四半期業績

III. 2027年3月期 通期業績予想

IV. トピックス

V. Appendix

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

I. 事業概況(ハイライト)

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期 事業概況及び業績

【2027年3月期 2Q】概況

- フレーバー：東南アジア、欧州で飲料関連を中心にフレーバーが堅調に推移
- フレグランス：東南アジアや中国ではファブリックケア等、欧州でファインフレグランスを中心に出荷が増加
- 中東情勢の影響：海外拠点は2Q（4月～6月）に原材料費が上昇傾向。日本では2Q（7月～9月）に原材料費の上昇が損益に影響

【2027年3月期 2Q】業績

［単位：億円］	2026/3 2Q実績	2027/3 2Q実績	通期見通し（8月開示）	前期比	通期見通し（8月開示）進捗率	主な増減要因
売上高	1,145	1,294	2,400	+13.0%	+53.9%	• フレーバーは東南アジア、欧州で増加 • フレグランスは欧州、東南アジア、中国で増加
営業利益	62	61	110	△1.2%	+55.8%	• 原材料価格上昇を主因に売上総利益率が低下
経常利益	67	59	115	△12.9%	+51.0%	• 外貨建債権に係る為替差損益が悪化 （前期：為替差益／当期：為替差損）
親会社株主に帰属する当期純利益	54	44	94	△19.3%	+46.3%	• 投資有価証券売却益が前期比で減少
期中平均為替レートUSD	149	158	150	+6.4%	-	
期中平均為替レートEUR	162	185	170	+13.8%	-	

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 業績見通し及び配当

【2027年3月期】通期業績見通し

[単位：億円]	2026/3 実績	2027/3 予想（修正後）	前期比	主な増減要因
売上高	2,251	2,600	+15.5%	• フレーバーでは新興国向けの売上が増加 • フレグランスではファブリックケア、ホームケアを中心に増加 • 米国子会社において医薬品中間体の出荷が増加 • 海外子会社の売上高の円換算による増収
営業利益	81	110	+35.3%	• 増収に伴い売上総利益が増加 • 欧米向け医薬品中間体の輸出増により、日本本社で増益
経常利益	95	115	+20.9%	• 営業利益増加に伴い増益 • 外貨建債権の評価替えに係る為替差益は前期比減少
親会社株主に帰属する当期純利益	95	94	△ 1.3%	• 投資有価証券売却益は前期比減少

【2027年3月期】通期配当予想

[単位：円]	2026/3 実績	2027/3 予想	補足情報
中間	120	26	• 2026/3の中間は分割前の金額を記載
期末	28	30	• 2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合をもって分割。2026/3の期末より分割後の金額を記載
年間	-	56	• 2026/3の年間の配当は、単純合計ができないため、非表示 • 2027/3は、DOEは3.5%、配当性向58.1%
（参考：5分割後）	52	56	• 2026/3の通期配当は分割前基準で260円、分割後基準で52円

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

II. 2027年3月期 第2四半期業績

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期業績

[単位：億円]	2026/3 2Q実績	2027/3 2Q実績	2027/3 見通し（8月開示）	前期比	通期見通し（8月開示）進捗率
売上高	1,145	1,294	2,400	+13.0%	+53.9%
売上総利益	376	420	801	+11.9%	+52.5%
売上総利益率	32.8%	32.5%	33.4%	△0.3P	-
販売管理費	314	359	691	+14.5%	+52.0%
販売管理費率	27.4%	27.8%	28.8%	+0.4P	-
営業利益	62	61	110	△1.2%	+55.8%
営業利益率	5.4%	4.7%	4.6%	△0.7P	-
経常利益	67	59	115	△12.9%	+51.0%
経常利益率	5.9%	4.5%	4.8%	△1.3P	-
親会社株主に帰属する当期純利益	54	44	94	△19.3%	+46.3%
純利益率	4.7%	3.4%	3.9%	△1.3P	-
期中平均為替レート USD	149	158	150	+6.4%	-
期中平均為替レート EUR	162	185	170	+13.8%	-

主な増減要因

売上高

- 1,294億円(＋13.0%)
  - フレーバーは東南アジア、欧州で増加
  - フレグランスは欧州、東南アジア、中国で増加

営業利益

- 61億円(△1.2%)
  - 原材料価格上昇を主因に売上総利益率が低下
  - 販売・管理体制強化に伴い販管費が増加

経常利益

- 59億円(△12.9%)
  - 外貨建債権に係る為替差損益が悪化
    (前期：為替差益／当期：為替差損)

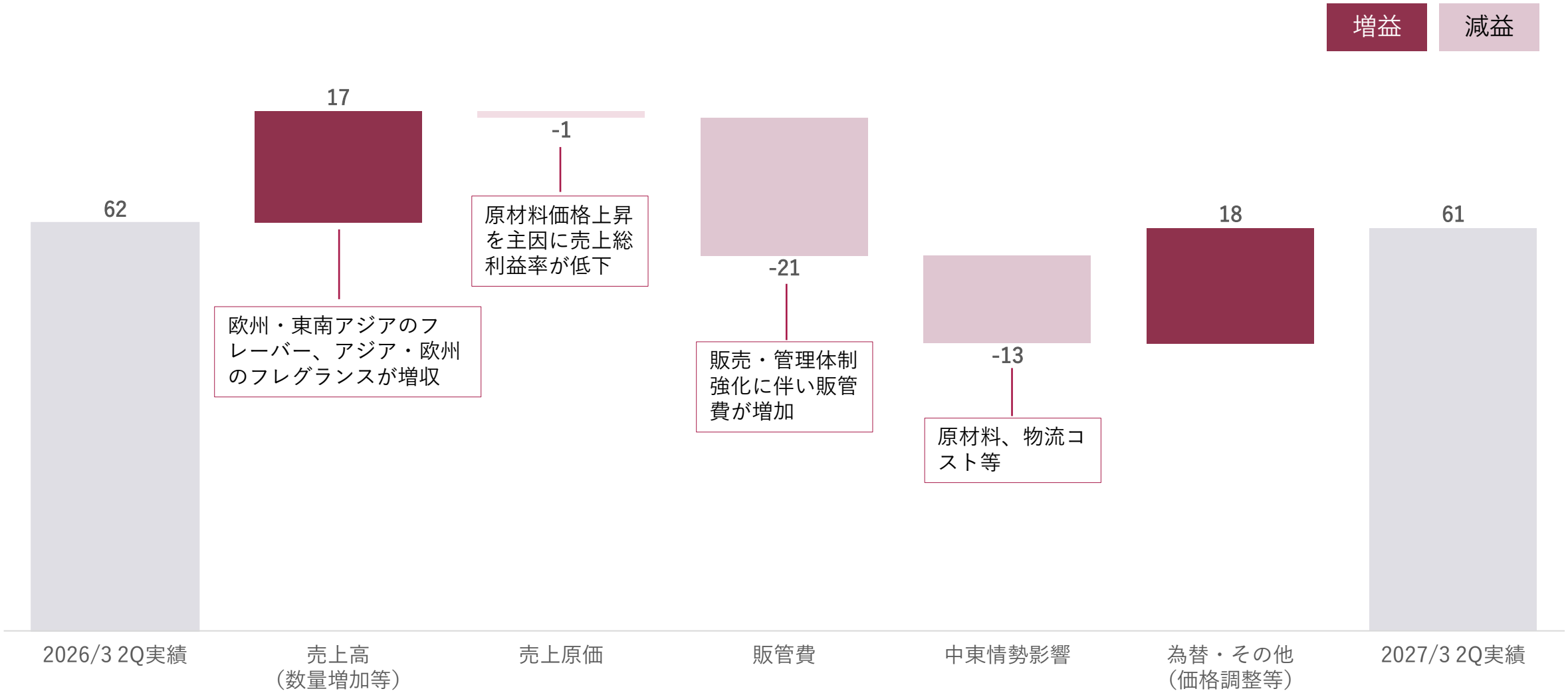
親会社株主に帰属する当期純利益

- 44億円(△19.3%)
  - 投資有価証券売却益が前期比で減少

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期業績 営業利益増減分析

［単位：億円］



※営業利益増減分析のうち、売上高・売上原価・販管費は同一の為替レート（前期実績）を適用して影響額を計算している

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期業績（地域別）

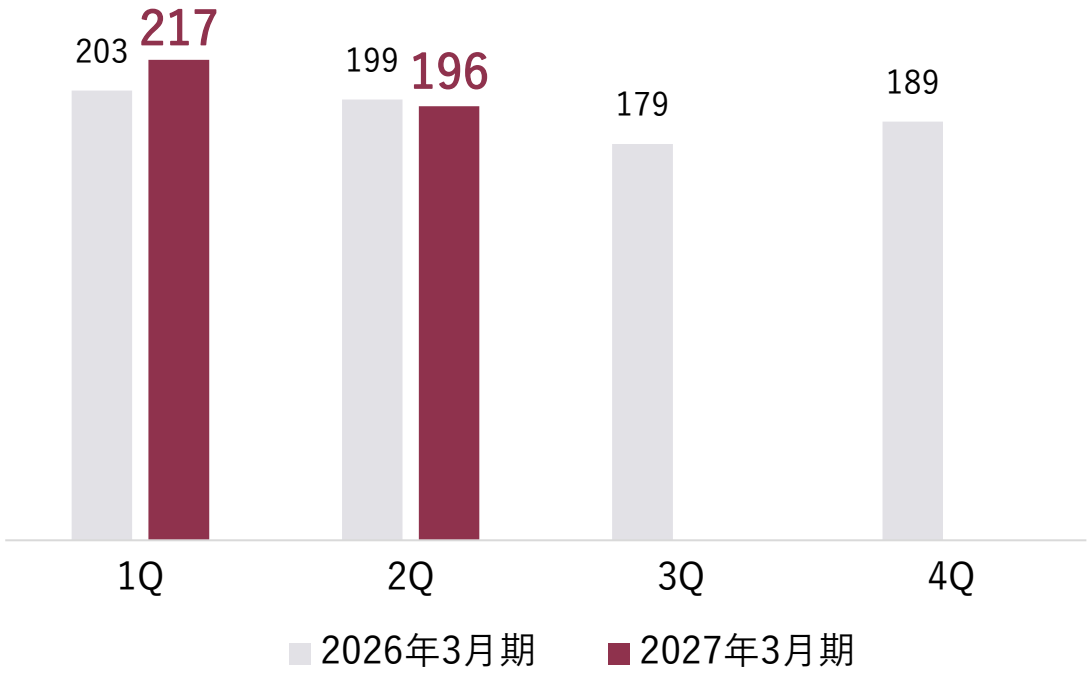
［単位：億円］		2026/3 2Q実績	2027/3 2Q実績	通期見通し（8月開示）	前期比	通期計画進捗率	主な増減要因
日　　本	売上高	402	413	775	+11	+53.3%	● 飲料関連が堅調に推移 ● アロマイングリディエンツで合成香料中間体等の輸出が増加し、売上総利益が改善
	営業利益	9	15	20	+6	+72.5%	
米　　州	売上高	289	324	652	+34	+49.6%	● 米国子会社でファインケミカルの出荷が増加 ● 中南米子会社でフレグランスが堅調に推移 ● 米国子会社で売上総利益率が低下
	営業利益	11	5	26	△ 6	+17.2%	
欧　　州	売上高	205	243	429	+39	+56.7%	● ファインフレグランス、飲料等が堅調に推移 ● フランス子会社で新基幹システム償却費が増加 ● ドイツ子会社で新基幹システム導入準備費用増
	営業利益	10	5	1	△ 5	+515.8%	
ア　ジ　ア	売上高	249	314	544	+65	+57.7%	● 東南アジアはグローバル顧客向け、中国はリージョナル顧客向けファブリックケア等が堅調に推移
	営業利益	32	49	63	+17	+78.6%	
調　　整	売上高	-	-	-	-	-	● ファインケミカルのグループ内取引増加により未実現利益が増加
	営業利益	1	△ 12	0	△ 13	-	
合　　計	売上高	1,145	1,294	2,400	+149	+53.9%	
	営業利益	62	61	110	△ 1	+55.8%	

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

地域セグメント（日本）

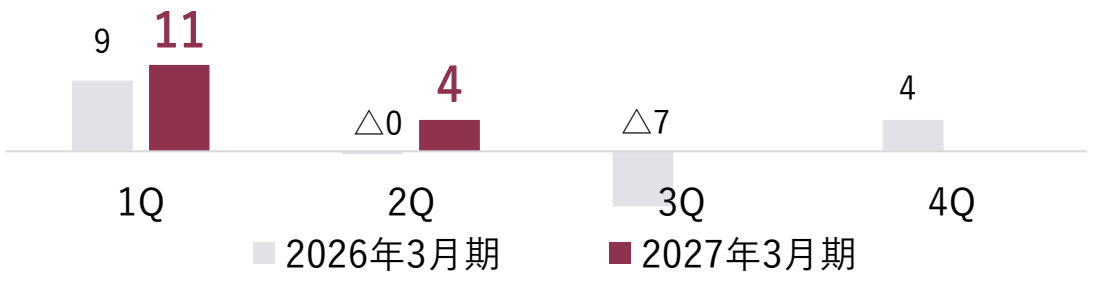
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



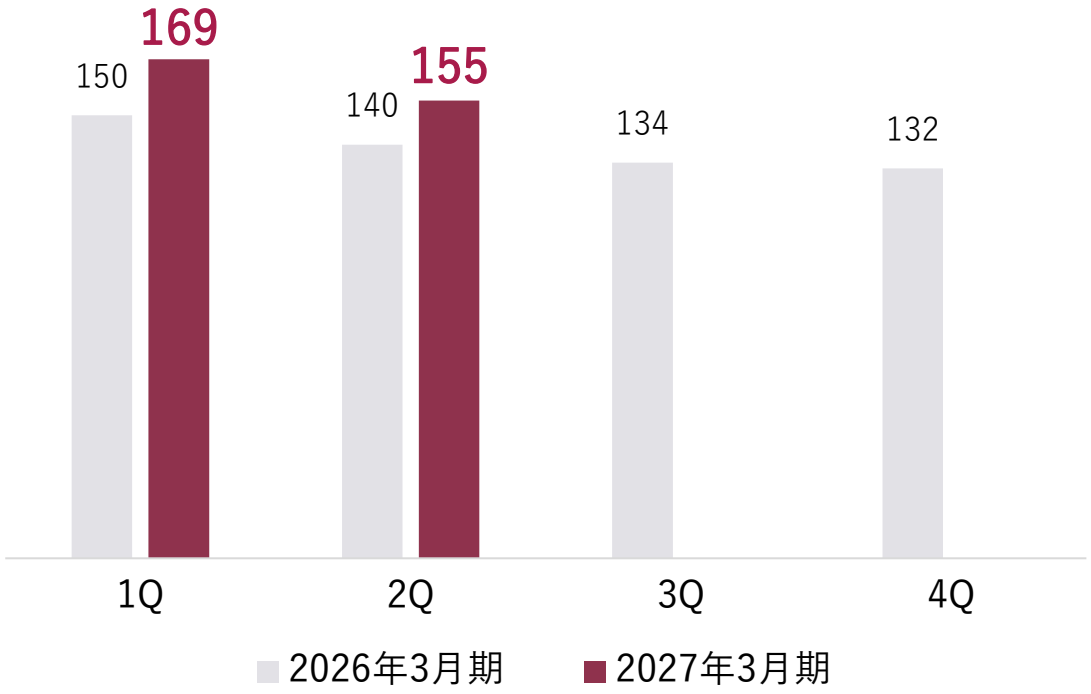
四半期推移コメント	1Qは増収増益。2Qは売上高が前年同期をわずかに下回る一方、営業利益は改善。 上期累計では、飲料関連の堅調な推移やアロマイングリディエンツの輸出増加等により増収増益。

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

地域セグメント（米州）

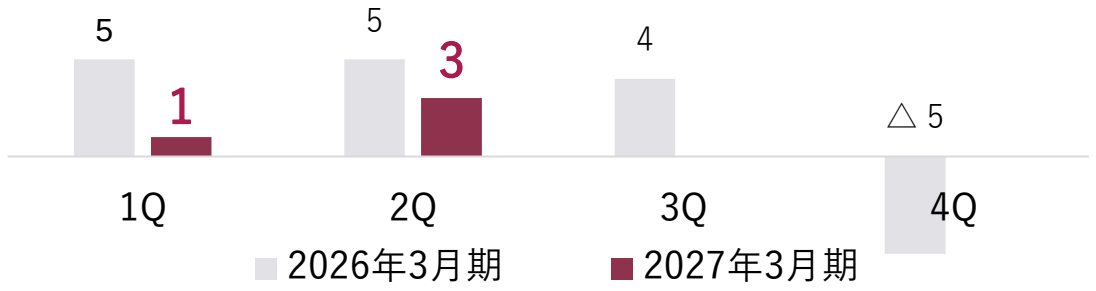
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



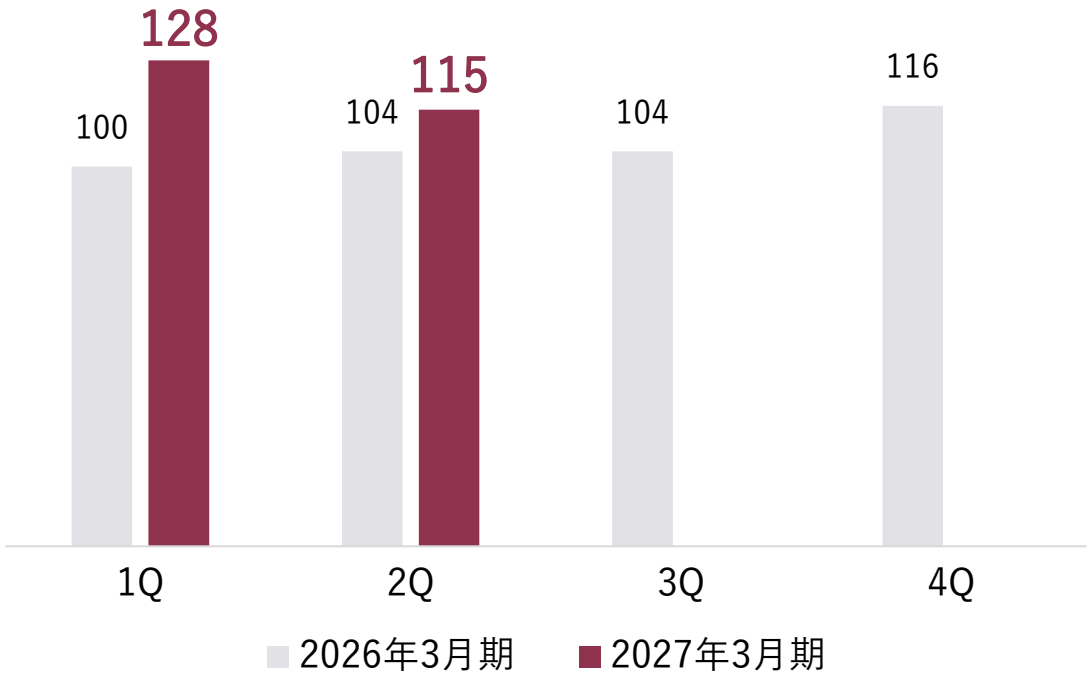
四半期推移コメント	1Q・2Qとも円安の換算影響等により増収。 2Qはフレーバー・フレグランスが増収となる一方、ファインケミカルが減収。 販管費の増加等により、1Q・2Qとも減益。

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

地域セグメント（欧州）

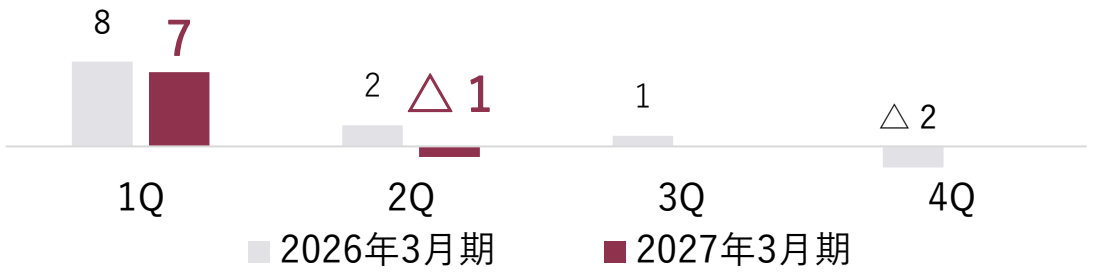
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



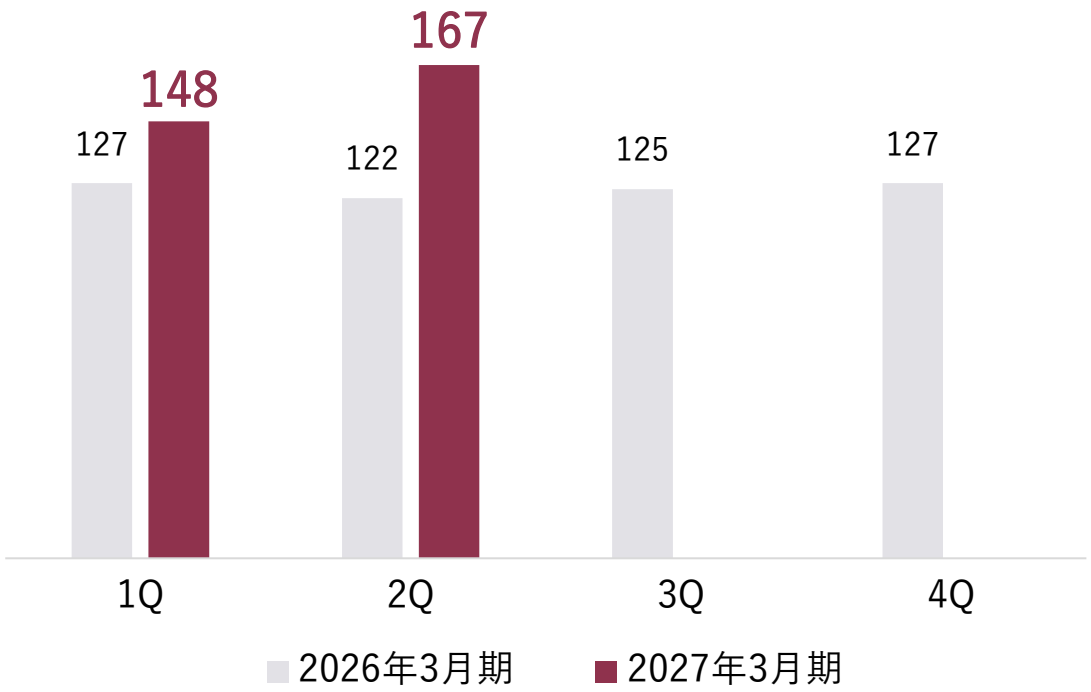
四半期推移コメント	1Q・2Qとも円安の換算影響等により増収。 2Qはフレーバー・フレグランスが為替込みで増収となる一方、新基幹システム関連費用等により営業損失。

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

地域セグメント（アジア）

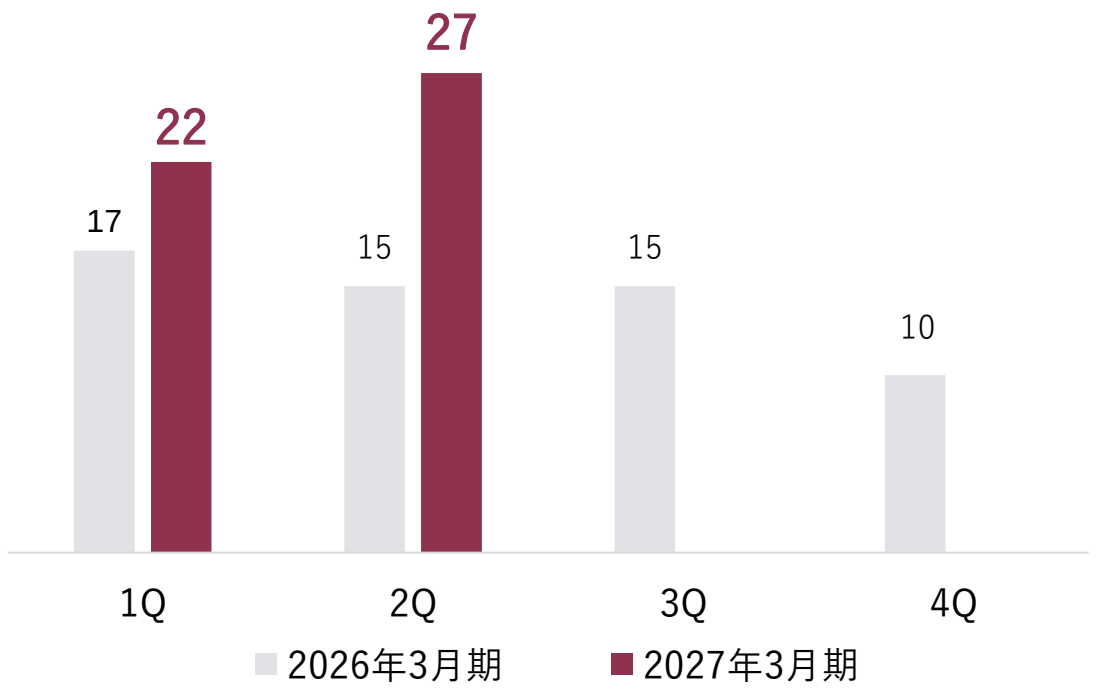
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



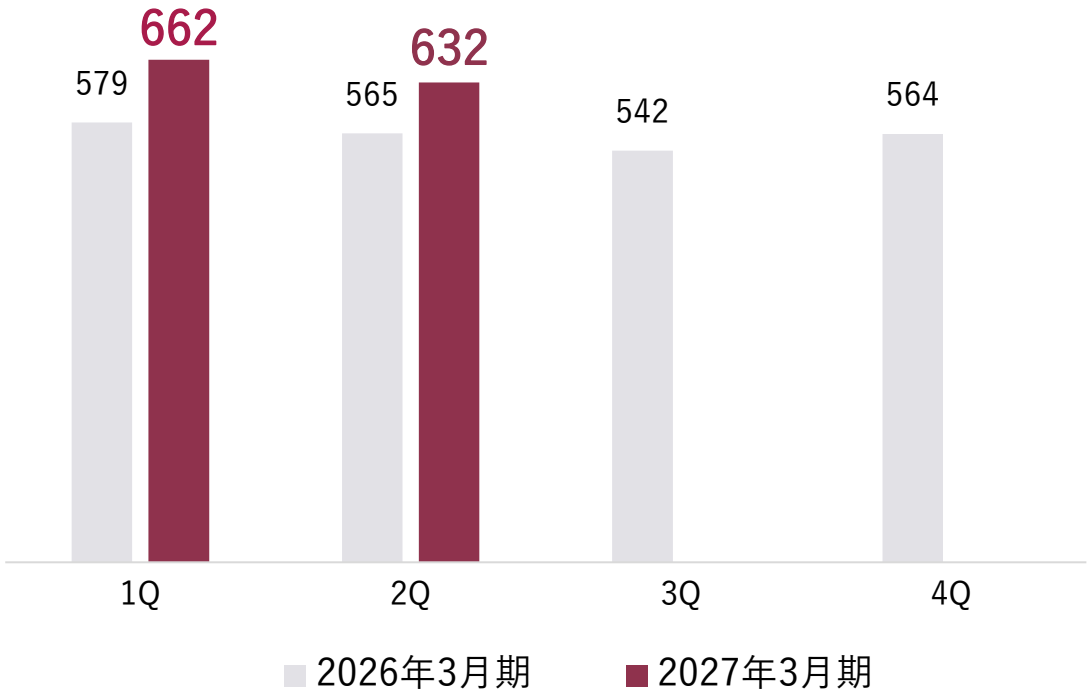
四半期推移コメント	1Q・2Qとも為替影響を除いても増収増益。 東南アジアのホームケア、中国のファブリックケア向け販売が堅調に推移し、原料費比率の低下も増益に寄与。

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

四半期決算推移

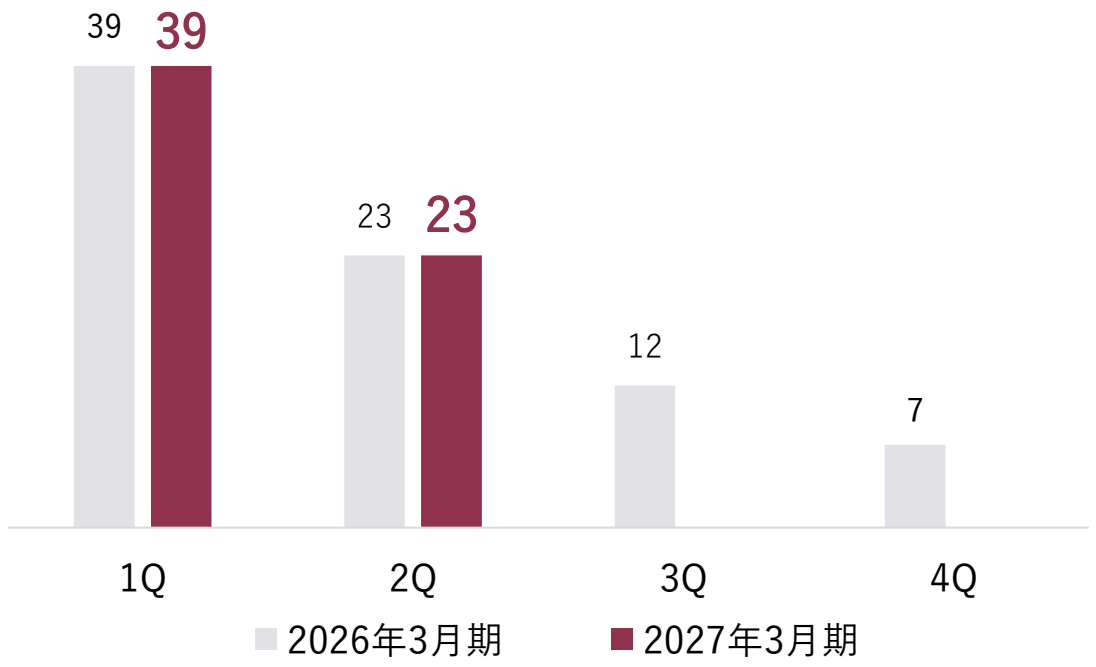
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



四半期推移コメント	1Q・2Qとも増収となり、為替影響を除くLFLベースでも増収。 一方、営業利益は開示ベースでは前年同期並み、LFLベースでは減益。 アジアの増収増益が寄与したものの、米州・欧州の減益や原材料費・販管費の増加等により、増収効果を相殺。

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期業績（事業別）

[単位：億円]		2026/3 2Q実績	2027/3 2Q実績	通期見通し（8月開示）	前期比	通期見通し（8月開示）進捗率	主な増減要因
フレーバー	売上高	634	688	1,260	+54	+54.6%	● 東南アジア、欧州で飲料関連の出荷が増加 ● ドイツ子会社で新基幹システムの導入準備費用が増加
	営業利益	42	40	51	△ 2	+79.4%	
フレグランス	売上高	363	448	791	+85	+56.6%	● 中国や東南アジアでファブリックケア等が増加、欧州でファインフレグランスが増加
	営業利益	6	15	26	+9	+57.4%	
アロマイングリディエンツ	売上高	82	89	165	+7	+53.9%	● 合成香料中間体等の出荷が堅調に推移 ● 主要原材料価格上昇により、売上総利益が減少
	営業利益	14	11	15	△ 3	+74.4%	
ファインケミカル	売上高	59	62	170	+3	+36.5%	● 米国子会社で医薬品中間体が堅調に推移 ● 原材料価格上昇により、売上総利益が減少 ● グループ内取引増加により未実現利益が増加
	営業利益	△ 6	△ 12	6	△ 6	－%	
その他	売上高	7	7	14	+0	+51.1%	
	営業利益	6	6	12	+0	+52.2%	
合計	売上高	1,145	1,294	2,400	+149	+53.9%	
	営業利益	62	61	110	△ 1	+55.8%	

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 第2四半期実績（単体 事業セグメント）

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2026/3 2Q	2027/3 2Q	前期比	2026/3 2Q	2027/3 2Q	前期比
フレーバー	243	244	+0.6%	7	6	△21.6%
フレグランス	45	43	△2.8%	△6	△6	—
アロマイングリディエンツ	65	68	+5.2%	6	9	+55.2%
ファインケミカル	35	68	+95.6%	△8	△3	—
その他	9	9	+1.6%	6	6	+6.8%
合計	395	432	+9.3%	5	12	+142.9%

主な変動要因		
	フレーバー	飲料関連が堅調に推移し、売上高は前年同期並み。人件費を中心とした販管費の増加により減益
	フレグランス	一部の主要顧客向け販売の低調により減収。価格改定や原料費削減を進めたものの、営業損失が継続
	アロマイングリディエンツ	合成香料中間体等の輸出増加により増収増益。一部主要原料の価格上昇によるコスト増はあったものの、販売増加の効果がこれを上回った
	ファインケミカル	触媒の販売前倒し等により大幅増収となり、営業損失は縮小。一方、新工場稼働に伴う固定費や原材料費の増加が収益を圧迫
	その他	不動産賃貸事業の賃貸収入等で構成し、売上高・営業利益は前年同期並み

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

III. 2027年3月期 通期業績予想

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

為替の前提、感応度

為替の前提

	2026/3 通期実績	2027/3 通期予想	前期比
USD	150円	158円	+8円
EUR	169円	183円	+14円

為替の感応度（1円円高／円安のケース）

	売上高に対する影響	営業利益に対する影響
USD	約6億円減収／増収	約30百万円減益／増益
EUR	約3億円減収／増収	約1百万円減益／増益

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 通期見通し

[単位：億円]	2026/3 実績	2027/3 予想 (8月開示)	2027/3 予想 (11月開示)	前期比	11月開示 vs 8月開示
売上高	2,251	2,400	2,600	+15.5%	+8.3%
売上総利益	729	801	837	+14.8%	+4.5%
売上総利益率	32.4%	33.4%	32.2%	△0.2P	△1.2P
販売管理費	648	691	727	+12.3%	+5.2%
販売管理費率	28.8%	28.8%	28.0%	△0.8P	△0.8P
営業利益	81	110	110	+35.3%	+0.0%
営業利益率	3.6%	4.6%	4.2%	+0.6P	△0.4P
経常利益	95	115	115	+20.9%	+0.0%
経常利益率	4.2%	4.8%	4.4%	+0.2P	△0.4P
親会社株主に帰属する当期純利益	95	94	94	△1.3%	+0.0%
純利益率	4.2%	3.9%	3.6%	△0.6P	△0.3P
期中平均為替レート USD	150	150	158	+5.3%	+5.3%
期中平均為替レート EUR	169	170	183	+8.3%	+7.6%

主な増減要因（11月開示 vs 8月開示）

売上高

- 2,600億円(+8.3%)
  - 日本のフレーバーで増収
  - 東南アジアのフレーバー、フレグランスで増収
  - 海外子会社の売上高の円換算による増収

営業利益

- 110億円(+0.0%)
  - 原材料費上昇により売上総利益率は低下
  - 販管費率は改善

経常利益

- 115億円(+0.0%)

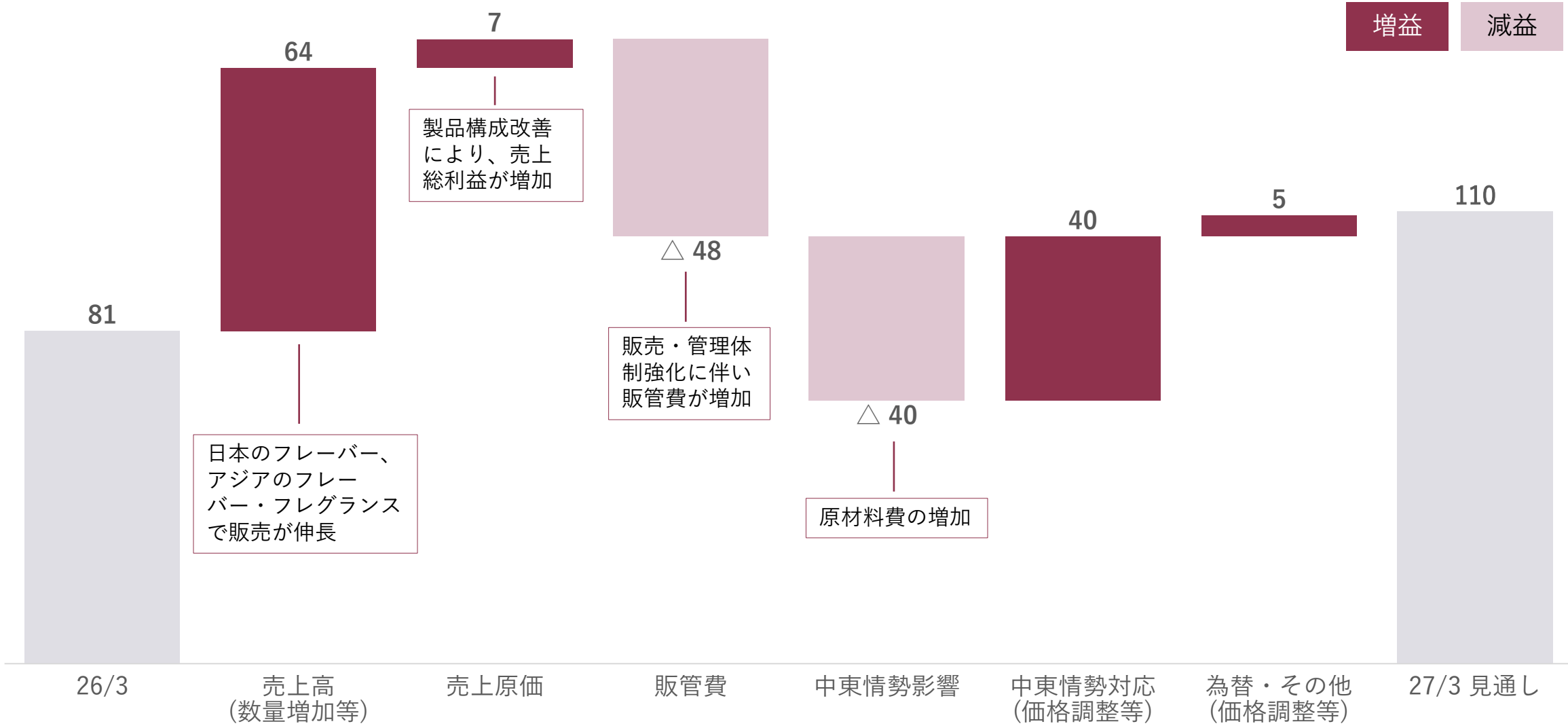
親会社株主に帰属する当期純利益

- 94億円(+0.0%)

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

営業利益の増減分析

[単位：億円]



© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 通期業績見通し（地域別）

[単位：億円]		2026/3 実績	2027/3 見通し (8月開示)	2027/3 見通し (11月開示)	為替影響 対 当初レート	11月開示 vs 前期実績	11月開示 vs 8月開示
日本	売上高	770	775	798		+3.7%	+3.0%
	営業利益	6	20	14		+132.1%	△31.6%
米州	売上高	556	652	706	+36	+27.0%	+8.3%
	営業利益	9	26	9	+0	+1.4%	△64.9%
欧州	売上高	424	429	465	+37	+9.7%	+8.4%
	営業利益	8	1	1	△ 0	△85.1%	+17.9%
アジア	売上高	502	544	631	+41	+25.7%	+15.9%
	営業利益	57	63	86	+6	+51.8%	+37.1%
調整	売上高	-	-	-		-	-
	営業利益	2	0	0		+0.0%	+0.0%
合計	売上高	2,251	2,400	2,600	+114	+15.5%	+8.3%
	営業利益	81	110	110	+6	+35.3%	+0.0%

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

地域セグメント(上期vs下期)

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2027/3 上期	2027/3 下期	上期比	2027/3 上期	2027/3 下期	上期比
日　　本	413	385	△6.8%	15	△1	-
米　　州	324	382	+17.9%	5	4	△20.0%
欧　　州	243	222	△8.6%	5	△4	-
ア　ジ　ア	314	317	+1.0%	49	37	△24.5%
調　　整	-	-	-	△12	12	-
合　　計	1,294	1,306	+0.9%	61	49	△19.7%

主な変動要因		
	日　　本	季節性要因等によるフレーバー、アロマイングリディエンツの出荷減少により減収 営業利益は原材料価格上昇の影響を受け下期に減益
	米　　州	米国子会社でファインケミカル増収。フレーバーの出荷減少等により営業利益は微減
	欧　　州	欧州子会社における出荷調整等の影響で減収。新基幹システム関連費用など販管費増により減益
	ア　ジ　ア	フレーバー売上堅調。原材料価格上昇の影響を受け減益
	調整・その他	内部取引に係る未実現利益の調整

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

2027年3月期 通期業績見通し（事業別）

[単位：億円]		2026/3 実績	2027/3 見通し (8月開示)	2027/3 見通し (11月開示)	為替影響 対 当初レート	11月開示 vs 前期実績	11月開示 vs 8月開示
フレーバー	売上高	1,226	1,260	1,345	+50	+9.7%	+6.7%
	営業利益	52	51	58	+4	+11.2%	+13.1%
フレグランス	売上高	758	791	885	+47	+16.7%	+11.8%
	営業利益	6	26	21	+2	+270.8%	△18.9%
アロマイングリディエンツ	売上高	162	165	164	+9	+1.6%	△0.4%
	営業利益	20	15	14	+0	△32.7%	△9.4%
ファインケミカル	売上高	91	170	192	+8	+110.3%	+12.7%
	営業利益	△ 8	6	4	+0	-	△26.9%
その他	売上高	14	14	15		+4.2%	+4.7%
	営業利益	12	12	13		+12.0%	+10.5%
合計	売上高	2,251	2,400	2,600	+114	+15.5%	+8.3%
	営業利益	81	110	110	+6	+35.3%	+0.0%

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

事業セグメント(上期vs下期)

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2027/3 上期	2027/3 下期	上期比	2027/3 上期	2027/3 下期	上期比
フレーバー	688	657	△4.5%	40	18	△55.0%
フレグランス	448	437	△2.5%	15	6	△60.0%
アロマイングリディエンツ	89	75	△15.7%	11	3	△72.7%
ファインケミカル	62	130	+109.7%	△12	16	-
その他	7	8	+14.3%	6	7	+16.7%
合計	1,294	1,306	+0.9%	61	49	△19.7%

主な変動要因		
	フレーバー	日本における季節性要因により出荷減少。欧州における製造経費・販管費増加等の影響で減益
	フレグランス	欧州における出荷調整で減収。原材料費高騰、販管費増により減益
	アロマイングリディエンツ	合成香料中間体、L-Mentholなどの出荷減および主要原材料の価格上昇による減収減益
	ファインケミカル	欧米向け触媒や医薬品中間体の出荷により増収増益

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

設備投資・減価償却費・研究開発費

［単位：億円］

	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3予想 (2026/11時点)
設備投資	82	105	118	140
減価償却費	74	79	81	90
研究開発費	142	157	177	190
売上高研究開発費率	7.6%	8.0%	7.7%	7.3%

主な変動要因		
	設備投資	欧州子会社における新基幹システム導入費用を中心に海外投資額が増加
	減価償却費	磐田工場の医薬品中間体生産設備、海外拠点における新基幹システムの稼働に伴い増加
	研究開発費	海外拠点の人員増強により増加、為替換算影響による増加

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

IV. トピックス

I.　持続的成長を支える研究開発拠点「鎌倉新研究所」

II.　中国事業の成長を支える新たな生産・供給基盤「中国新工場」

III.　「メセナアワード2026」優秀賞を受賞

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

I.　持続的成長を支える研究開発拠点「鎌倉新研究所」

WHY：なぜ新研究所に投資するのか

中長期的な研究開発力とイノベーション創出力を強化するため、Center of Excellenceとして整備

研究開発基盤の強化

- 持続的成長を支える研究開発基盤として整備
- 既存研究所の機能移転にとどまらない戦略的投資
- 新たな価値を創出するCenter of Excellence

研究開発の変革と共創

- RX（Research Transformation）の推進
- 研究分野・組織間の技術融合
- 顧客・大学・研究機関等との共同研究の推進

人材・ブランド

- 優秀な研究人材の獲得・育成
- 当社の研究開発力を発信する象徴的拠点



研究開発基盤の強化 > 技術・知見・人材の融合 > 社内外との共創 > 新たな価値の創出 > 持続的成長への貢献

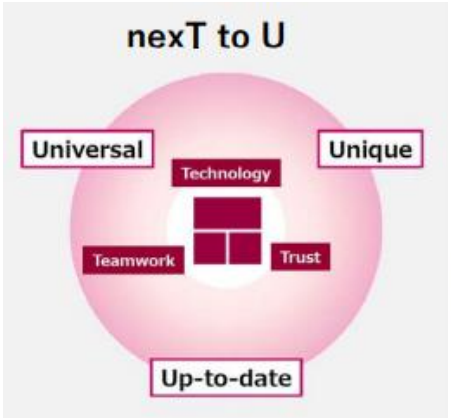
TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

I.　持続的成長を支える研究開発拠点「鎌倉新研究所」

HOW／WHAT：どのような施設によって実現するのか

技術融合と社内外との共創を促進し、新たな発想と研究テーマの創出を支える研究環境を整備

施設コンセプト





空間設計

執務空間

組織・研究分野を越えたコミュニケーションを促進

共創空間

社内外の交流や共同研究を支える環境

実験エリア

技術力・先進性を可視化する研究環境





施設概要・投資計画

所在地	神奈川県鎌倉市梶原
土地面積	35,362.39㎡
延べ面積	29,473㎡
建物	地上4階
投資額	約300億円 （研究所用地取得費用を除く）

今後のスケジュール

2026年12月	工事着手予定
⟨	
2029年1月	竣工予定

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

II. 中国事業の成長を支える新たな生産・供給基盤「中国新工場」

WHY CHINA｜なぜ中国市場か

中国市場の構造的な需要拡大を取り込み、ローカル顧客を中心としたシェア拡大を加速

MARKET

2025年 中国香料市場

Flavor
約34億米ドル

Fragrance
約25億米ドル

中国はAPAC最大の香料市場

健康・機能性ニーズ、パーソナルケア、
ホームフレグランス等を背景に、中長期的な
需要拡大を見込む

APAC最大の市場 × 中長期的な需要拡大

GROWTH POTENTIAL

中国市場における当社シェア

現在地
当社シェア 約1%

目指す姿
市場を上回る成長 → シェア拡大

市場予測CAGRと当社売上計画CAGRの比較（2025～2030年）



シェア拡大に向けた戦略： MNA顧客との関係強化 × 中国ローカル顧客開拓 × 営業・R&D強化

APAC最大の中国香料市場で、市場を上回る売上成長により約1%からのシェア拡大を目指す

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

II. 中国事業の成長を支える新たな生産・供給基盤「中国新工場」

WHAT WE BUILD｜何を構築するか

生産能力・安全性・効率性・供給力を高め、中国事業の持続的成長を支える中核生産拠点を構築

新工場が備える4つの機能

CAPACITY
生産能力の増強

SAFETY
安全性・法令対応
最新基準に対応した生産基盤

EFFICIENCY
自動化・省人化
生産効率と品質の向上

SUPPLY
安定供給
サプライチェーン最適化

ローカル顧客への対応力と供給力を一体強化
販売・研究開発・生産の連携を通じ、顧客ニーズ、新規品目、生産数量の拡大に対応



張家港新工場 完成イメージ

【投資・稼働計画】

約200億円	出資・借入	2029年上期
予定投資額	資金調達方法	稼働予定

市場を上回る売上成長とシェア拡大を通じ、中国事業の中長期的な収益貢献を目指す

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

III.「メセナアワード2026」優秀賞を受賞

概要

- **当社の文化活動 高砂コレクション®ギャラリーが、公益社団法人企業メセナ協議会の「メセナアワード2026」で優秀賞を受賞**

- **メセナアワードは、企業によるメセナ（企業が芸術文化活動を支援する活動）の充実と社会からの関心を高めることを目的に1991年に創設された賞で、毎年、前年度の「This is MECENAT」認定活動の中から特に優れた活動を選考している**

- **「メセナアワード2026」の優秀賞5件のうちの1件を当社が受賞**

MECENAT AWARDS 2026

【高砂コレクション®ギャラリーとは】
高砂香料工業が収集した古今東西の香り文化にまつわる資料・作品を展示する、東京・蒲田本社内のギャラリー。
2024年から毎年企画展を開催しており、3回目となる「光と香り―ガラス香水瓶コレクション展」を2026年12月11日まで開催中。







© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

本日は、ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2026年11月24日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

感性のとなりに

TAKASAGO

TAKASAGO

感性のとなりに

香りをつくることは
だれかの感性について思いをはせることだと
わたしたちは考えます。

1920年の創業から、
気がつけば、世界の国と地域へ。

そのすべてには、
この地球の、あの街で暮らす、
「その人」の感性に栄養を届け、
喜ばせたいという思いがあります。

きもちで測って、科学でかたちにすること。
つぎは、香りと何をしよう？
そう問いつづけ、可能性をひとつずつひらいていくこと。

わたしたちは、いつも感性のとなりで
香りが世界にできることを考えつづけます。

V. Appendix

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

創業精神・企業理念・Vision 2040

創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、
新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

NGP-2 戦略

Vision 2040

NGP-2

基本方針	海外の成長	国内の収益改善	サステナブルな経営
Key Success Factors	• 事業軸の成長戦略 • 新規顧客の開拓 • 売上総利益の拡大 • 海外サプライチェーンの最適化 • 先端科学による競争力のある技術の創成	• 売上総利益の最適化 • 費用の構造改革 • 新領域の開拓 • フレーバー・フレグランス製品生産効率性の追求 • 合成事業生産体制の再構築 • 国内サプライチェーンの最適化 • 先端科学による競争力のある技術の創成	• Sustainability2030の実行 • コーポレート基盤の強化 • 人的資本の価値最大化 • 業務遂行力の向上 • SDGsへの貢献を意識した製品の開発

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

各事業の特徴

	フレーバー	フレグランス	アロマ イングリディエンツ	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、 デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、 化粧品、芳香剤等	香料の原料 （フレーバー、 フレグランス）	医薬品中間体、 機能性材料、触媒、 農薬中間体
主要顧客	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、 天然品市場(メントール)	化学メーカー等

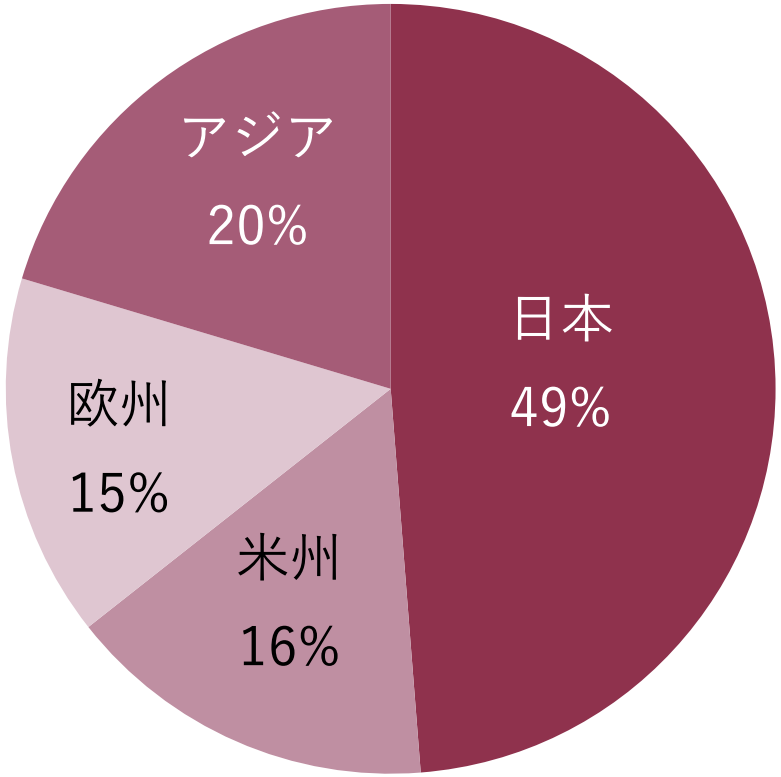
TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

4つの事業の成長

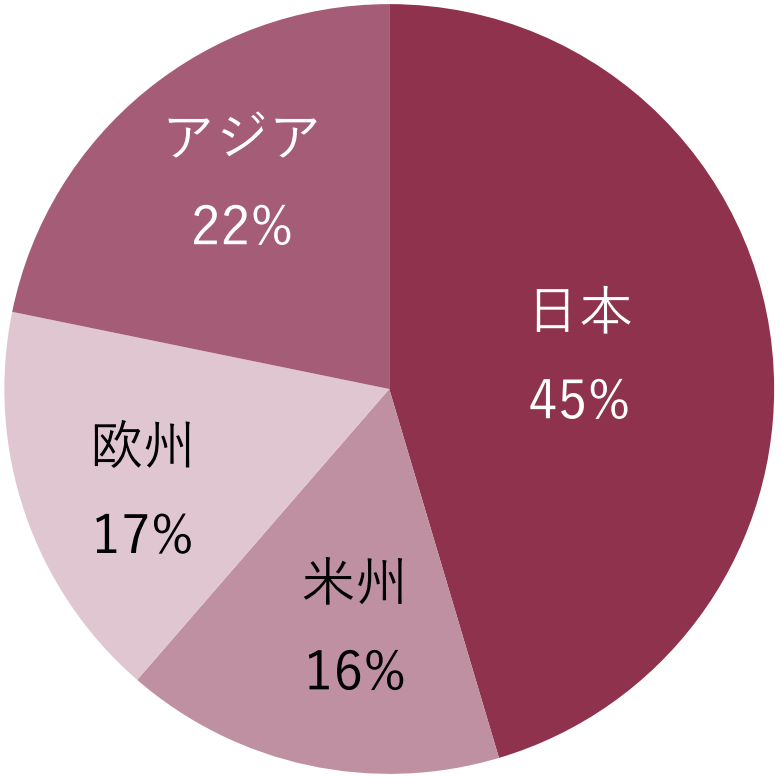
事業	方針、施策
フレーバー 	• 事業戦略や設備・研究投資を通じて、新規顧客の獲得や新興国でのビジネス拡大 • 製品ポートフォリオ適正化により、収益性の改善 • 各地域でのニーズを満たす素材/製品開開発とグローバル連携による競争力を強化
フレグランス 	• 人的/技術のグループ内連携や設備・研究投資を通じて、パーソナルケアに注力 • 東南アジア、中南米、インドなど新興国でのビジネスを拡大 • 原材料費や製造経費におけるマネジメント力を強化推進 • 事業基盤の強化（人材、R&D、Consumer Insights & Market Research）
アロマ イングリディエンツ 	• 農産業分野などの新領域、新興国での既存ビジネス拡大 • 付加価値の高いスペシャリティ製品の拡充により収益性の改善 • 生分解性やバイオベース値などに配慮し、環境にやさしい新規品の開発
ファインケミカル 	• 医薬品中間体カテゴリーの拡大 • 新工場設備稼働による製品供給能力の強化 • 触媒技術や連続フロー技術の深化により競争力の向上

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

フレーバー事業　地域別　売上実績



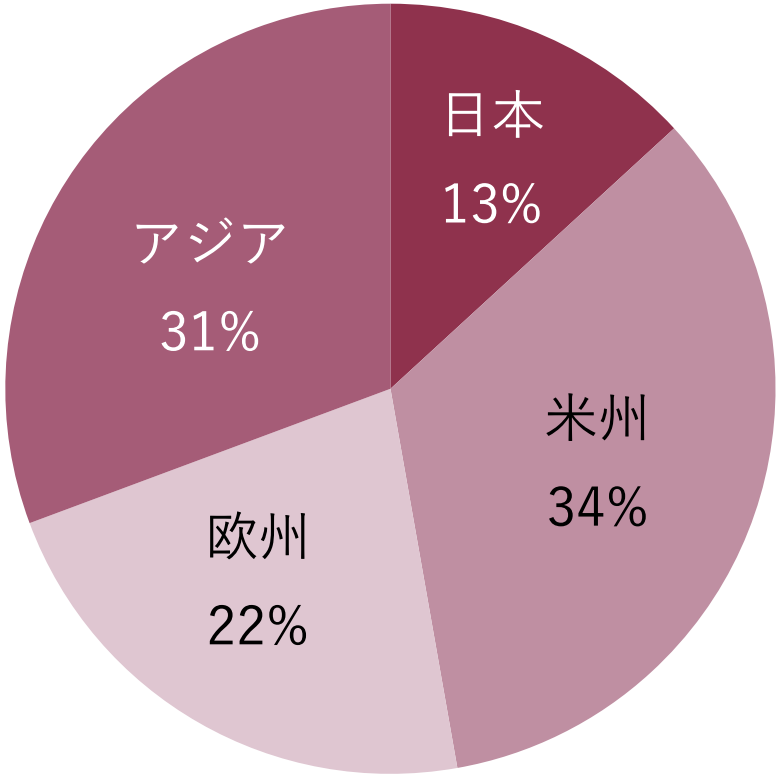
2026年3月期2Q



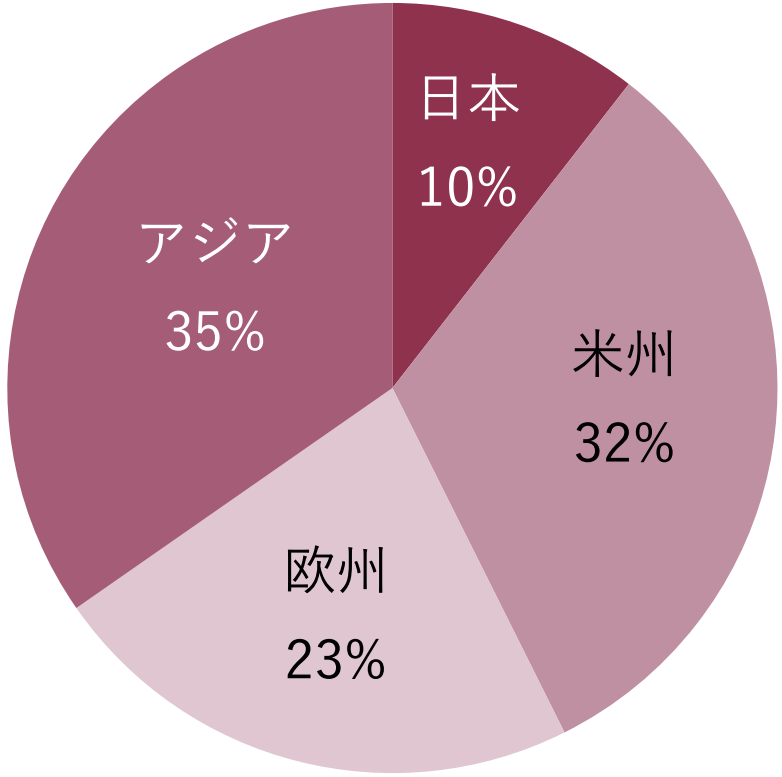
2027年3月期2Q

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

フレグランス事業　地域別　売上実績



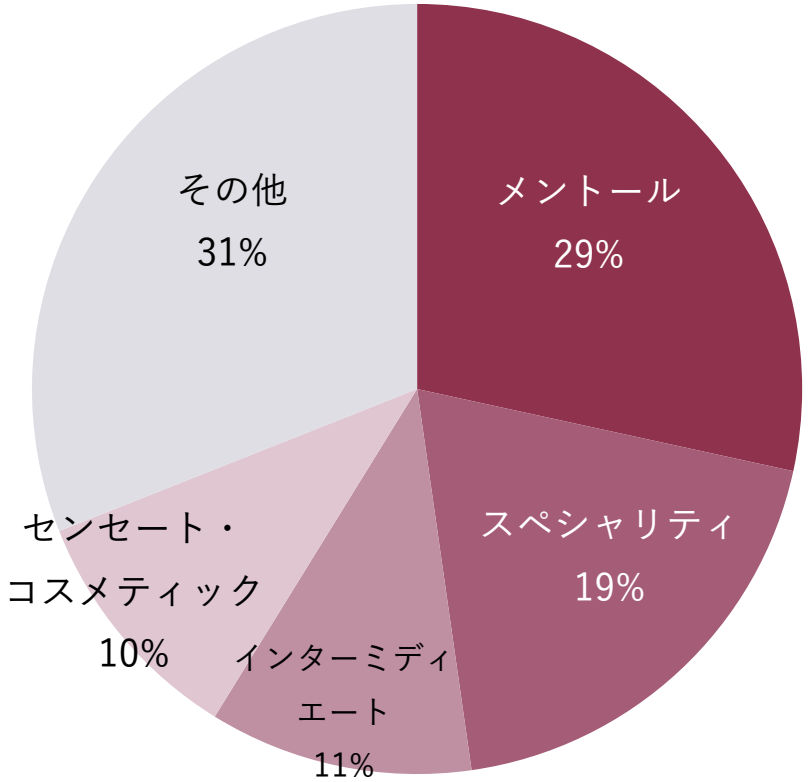
2026年3月期2Q



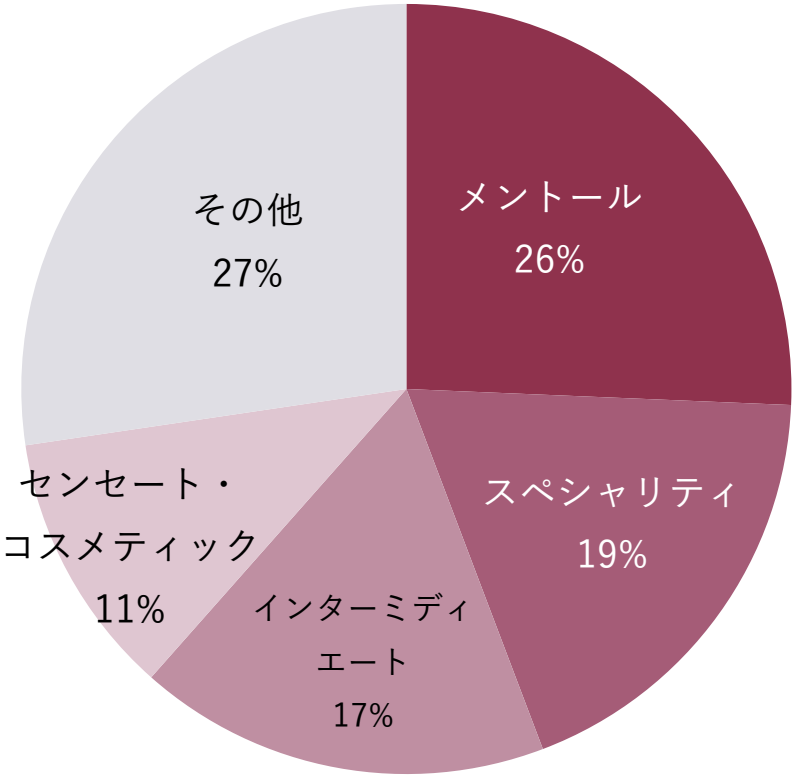
2027年3月期2Q

© 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

アロマイングリディエンツ事業　カテゴリー別　売上実績



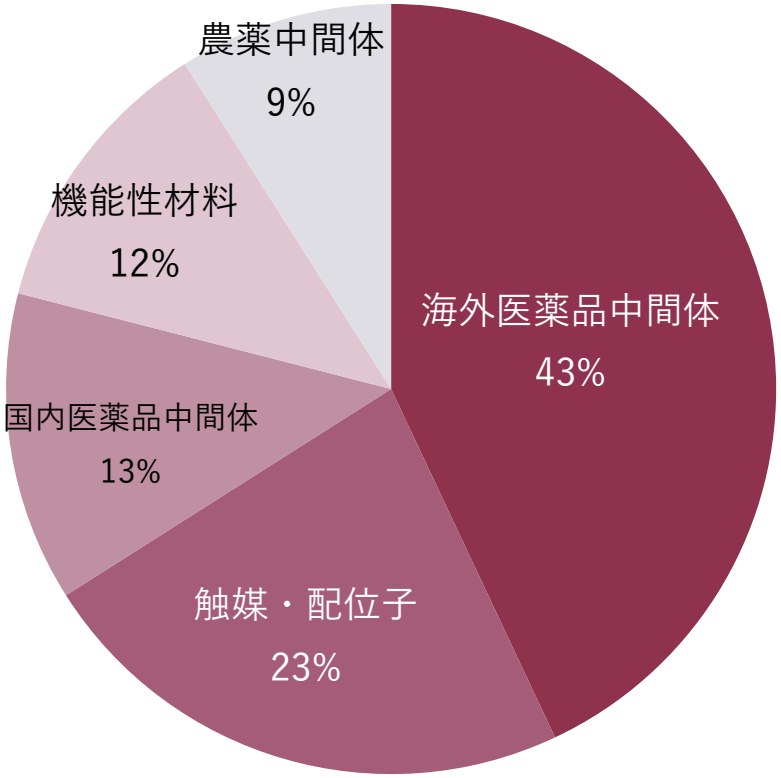
2026年3月期2Q



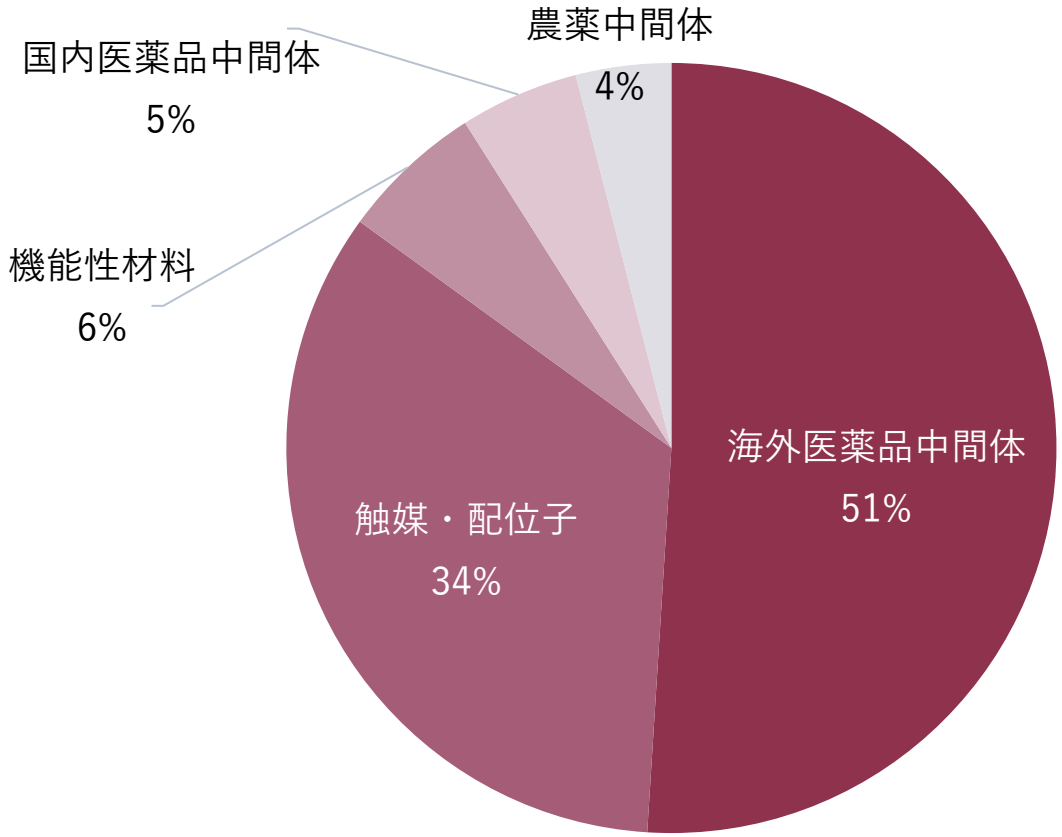
2027年3月期2Q

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.

ファインケミカル事業　カテゴリー別　売上実績



2026年3月期2Q



2027年3月期2Q

TAKASAGO © 2026 Takasago International Corporation All Rights Reserved.